

言語テスト「SPOT」のWEB版・用紙版の比較

フォード丹羽順子

要 旨

SPOT は、自然な発話速度で読み上げられる文を聞きながら解答用紙にある文中の空欄にひらがな1文字をディクテーションするというテストである。信頼性、実用性が高く、国内外で広く利用されており、WEB版が開発された。WEB版は解答形式が四肢選択で、この点が用紙版と最も異質である。この違いがテスト結果にどのように影響するかを検討するために、同じ受験者に対して用紙版とWEB版を実施した。その結果、易しいSPOTでは用紙版の得点が有意に高く、難しいSPOTではWEB版の得点が僅かだが高かった。解答パターンを分析した結果、用紙版の正解がWEB版では不正解というのはSPOTの難易にかかわらず同様に見られたが、用紙版の不正解がWEB版では正解というのは、難しいSPOTでは易しいSPOTの2～4倍あった。WEB版の解答形式が、用紙版に比べより多く複雑な作業を要求することが、WEB版の得点を低くする一方で、問題が難しい場合には選択肢の存在が正答を助けると言える。

【キーワード】 SPOT WEBテスト 即時的処理能力 運用能力の測定 解答行動

1. はじめに

SPOT (Simple Performance- Oriented Test) は、言語の即時的処理能力を間接的に推計するテスト法であり、日本語運用能力を反映していると考えられる（フォード丹羽順子他 1995, 小林典子他 1996, Ford-Niwa Junko 他 1999）。1991年に開発されて以来、様々な日本語教育機関において試用され、テストの信頼性および妥当性が検討されてきた。そして、その信頼性の高さや実施の簡便さから、日本語教育機関でのクラス分けや習得研究における能力レベル分けなどに、国内外で広く利用されている。

言語テストは現在、コンピュータ化・WEB化が進んでいるが、SPOTも時代の要請を受け、WEB版が開発された。WEB版は、これまでの紙と鉛筆による用紙版のSPOTと、問題文の提示の仕方や解答形式などにおいて異なっている。そこで、WEB版が用紙版と同様に妥当性をもったテストでありうるかを検討するために、同じ受験者に対

して用紙版と WEB 版を実施した。

本稿では、その結果から、テスト媒体の違いがテストの特性をどのように変え、結果にどのように影響するかを検討する。

2. SPOT の概要

2.1 SPOT の内容と方法

SPOT は、次の(1)～(3)に示すような問題 30 問で構成されている⁽¹⁾。問題文は自然な発話速度で読み上げられ、音声テープに録音されている。一方、解答用紙では()内は空欄になっており、受験者はテープを聞きながら解答用紙の文を読み、空欄部分に該当するひらがな 1 文字をディクテーションする。

- (1) そこ(で)何をしているんですか。
- (2) この漢字は難しくて読(め)ません。
- (3) さっき階段から落ちそうに(な)って、あぶなかった。

ディクテーションをする箇所は文法項目に関わる部分であり、項目の選定によってテストの難易を決めることが可能である。難易については、同じ問題内容のテストであっても、読み上げ速度を速くしたり、音声テープの明瞭さを落とすことによって、難易度を上げることができる⁽²⁾。

問題間の間隔は 2 秒であり、テープは 1 回だけ流して、その終了とともにテストも終了するため、解答用紙の配布から回収まで含めても 10 分以内で終了する。また、採点についても、ひらがな 1 文字で、正解も 1 つのため、作業は単純である。

以上のことから、SPOT はテスト実施のコストパフォーマンスが高く、実用性にすぐれたテストであると言える。

2.2 SPOT が測定する能力

SPOT のユニークな点は音声テープに合わせて解答を行うことである。テープなしでも解答可能なテストにおけるテープ要因を解析した結果、SPOT は言語の即時的処理を要求するテストであると結論づけられた(フォード丹羽順子他 1995)。

テープは正答を与えているのであるが、自然な発話速度であり、答えを聞き取ることができるか否かは受験者の能力による。自然な発話速度で言語処理を行う能力がな

ければ、答えを聞き取ることはできず、時間をかけて考えれば空欄補充ができるという受験者にとっては、テープはその時間を奪うことになり、得点できない。その意味で、SPOT は言語の即時的処理能力を間接的に推計すると言える。

3. SPOT-WEB 版

言語テストは現在、コンピュータ化・WEB 化が進んでいる。SPOT は海外でも広く使用されており、WEB 化の要望が強かった（當作靖彦 2005）。そこで、世界中から利用できるようにすることを目指して WEB 版の開発がなされた。WEB 版では、問題はサーバーに格納され、試験結果が自動的に蓄積されるシステムになっている。開発の過程については、小林典子（2005）に報告がある。

以下、用紙版と WEB 版の違いについて述べる。

(4) 文字情報

用紙版では、A 4 サイズの用紙に問題が 10 問ずつ並んでいるが、WEB 版では 1 画面に 1 問である。すなわち、用紙版では当該の問題だけでなく、前後の問題に取り組むことが可能であるが、WEB 版ではそれができない。

漢字の読みについては、文が読み上げられるため得点を左右しないということが明らかになっているが（小林典子他 1994）、心理的側面を考慮し、用紙版ではふりがながふられている。一方、WEB 版では付けることができないため、ふられていない。

(5) 解答形式

用紙版では、（ ）にひらがな 1 文字を記入するが、WEB 版では四肢選択で、マウスを使って答えをクリックする（解答画面の例を資料 1 に示す）。

解答を間違えた場合に、用紙版では何度でも書き直すことができるが、WEB 版で間違った答えをクリックした場合、訂正することができない。

(6) 問題順

用紙版では固定されているが、WEB 版ではランダムに提示される。

(7) 問題間の間隔

用紙版では 2 秒に固定されている。WEB 版では 4 秒であるが、答えをクリックすると、音声の途中であっても、次の問題に移るように設計されているため、4

秒間待つ必要はなく、自分のペースで解答を進めていくことができる。

(8) 受験態勢

用紙版では通常一斉に行うが、WEB 版では個別に行う。

(9) 音声情報

用紙版を一斉に行う場合は、テープレコーダーのスピーカーから流れてくる音声を一斉に聞くが、WEB 版ではコンピュータから出てくる音声をヘッドホンで聞く。

4. 実施計画

4.1 使用した SPOT

SPOT-用紙版および WEB 版のバージョン D E F G（各 30 問）を使用した。なお、D E F G の問題内容は次のとおりである。

D：初級および中級文法項目で構成・話しことばスタイル

E：初級および中級文法項目で構成・書きことばスタイル

F：初級文法項目のみで構成・話しことばスタイル

G：初級文法項目のみで構成・書きことばスタイル

4.2 受験者

受験者は佐賀大学の留学生 24 名で、内訳は次のとおりである。

- ・初級前半終了者 11 名
- ・初級終了者 10 名
- ・中級者 3 名

4.3 手続き

テスト媒体は異なるものの同じテストを実施するため、練習効果の存在を考慮し、用紙版・WEB 版の実施順によって 2 つの組に分けた。「用紙版→WEB 版」の組（12 名）、「WEB 版→用紙版」の組（12 名）に分けて、F G D E の順で、個別に実施した。

音声は用紙版・WEB 版ともにヘッドホンを使用して聞かせた。

テスト終了後、用紙版と WEB 版の比較についてのアンケートに記入してもらった。

5. 結果と考察

5.1 テスト結果

SPOT 各版のテスト結果を、表 1 「用紙版→WEB 版」の組、表 2 「WEB 版→用紙版」の組、表 3 「全体」に示す。

表 1 SPOT 各版の実施結果（用紙版→WEB 版）

	D用紙	Dweb	E用紙	Eweb	F用紙	Fweb	G用紙	Gweb
最高点	23	25	27	28	30	29	30	30
最低点	11	12	12	9	16	15	24	17
平均	17.17	18.00	18.92	19.25	23.75	22.75	26.58	25.00
正答率	0.57	0.60	0.63	0.64	0.79	0.76	0.89	0.83
標準偏差	4.41	4.73	4.11	5.52	4.15	4.11	2.06	3.89

表 2 SPOT 各版の実施結果（WEB 版→用紙版）

	D用紙	Dweb	E用紙	Eweb	F用紙	Fweb	G用紙	Gweb
最高点	29	25	29	27	29	28	30	29
最低点	4	6	2	7	12	11	18	9
平均	18.58	18.25	20.33	20.08	24.42	21.83	27.25	23.67
正答率	0.62	0.61	0.68	0.67	0.81	0.73	0.91	0.79
標準偏差	7.04	6.52	6.96	6.37	4.96	5.40	3.09	6.16

表 3 SPOT 各版の実施結果（全体）

	D用紙	Dweb	E用紙	Eweb	F用紙	Fweb	G用紙	Gweb
最高点	29	25	29	28	30	29	30	30
最低点	4	6	2	7	12	11	18	9
平均	17.88	18.13	19.63	19.67	24.08	22.29	26.92	24.33
正答率	0.60	0.60	0.65	0.66	0.80	0.74	0.90	0.81
標準偏差	5.92	5.70	5.76	5.98	4.58	4.82	2.64	5.19

表1、表2を見ると、より難しいバージョンであるDEでは、練習効果が見られ、後に実施したテストのほうが、その差はわずかであるが、平均点が高いことがわかる。しかし、より易しいバージョンのFGでは、実施順にかかわらず用紙版の平均点が高い。特に用紙版を後に実施した組（表2）では、かなりの得点差が見られる。全体を見ると（表3）、DEではWEB版の平均点がわずかではあるが高く、FGでは用紙版の平均点が高いことがわかる。これらの用紙版・WEB版における平均点の差が有意と認められるかを検証するために、危険率5%でt検定を行った。表4～表7がその結果である。

表4 SPOT-Dの用紙版・WEB版における得点差の検定結果

	用紙版→WEB版	WEB版→用紙版	全体
自由度	11	11	23
t	-1.60	0.51	-0.59
P(T<=t) 両側	0.14	0.62	0.56

SPOT-Dの用紙版・WEB版における平均点の差は、「用紙版→WEB版」の組、「WEB版→用紙版」の組、「全体」、いずれの場合においても有意ではなかった。

表5 SPOT-Eの用紙版・WEB版における得点差の検定結果

	用紙版→WEB版	WEB版→用紙版	全体
自由度	11	11	23
t	-0.36	0.31	-0.07
P(T<=t) 両側	0.73	0.76	0.95

SPOT-Eの用紙版・WEB版における平均点の差も、「用紙版→WEB版」の組、「WEB版→用紙版」の組、「全体」、いずれの場合においても有意ではなかった。

表 6 SPOT-F の用紙版・WEB 版における得点差の検定結果

	用紙版→WEB 版	WEB 版→用紙版	全体
自由度	11	11	23
t	1.09	3.34	2.93
P(T<=t) 両側	0.30	0.01	0.01

SPOT-F の用紙版・WEB 版では、「WEB 版→用紙版」の組および「全体」において、平均点の差は有意であった。

表 7 SPOT-G の用紙版・WEB 版における得点差の検定結果

	用紙版→WEB 版	WEB 版→用紙版	全体
自由度	11	11	23
t	1.65	3.37	3.54
P(T<=t) 両側	0.13	0.01	0.01

SPOT-G の用紙版・WEB 版も同様に、「WEB 版→用紙版」の組および「全体」において、平均点の差は有意であった。

FG は、特に用紙版において正答率が高く、受験者にとって比較的易しいテストであったと言えよう。その場合、用紙版のほうが WEB 版に比べて得点できると言える。

5.2 用紙版・WEB 版における解答パターン

1 つ 1 つの解答に目を向け、用紙版・WEB 版における解答のパターンを分析した。結果を、表 8 「用紙版→WEB 版」の組、表 9 「WEB 版→用紙版」の組、表 10 「全体」に示す（1 つのテストは、30 問を各組 12 名が受けているため、用紙版・WEB 版を組み合わせた解答数は、各組で合計 360、全体で合計 720 になっている）。

表8 用紙版・WEB版における解答パターン（用紙版→WEB版）

用紙版・WEB版	D	%	E	%	F	%	G	%
(1) 正答・正答	166	0.46	182	0.51	249	0.69	280	0.78
(2) 正答・誤答	27	0.08	31	0.09	21	0.06	23	0.06
(3) 正答・未解答	13	0.04	13	0.04	15	0.04	16	0.04
(4) 誤答・正答	31	0.09	36	0.10	17	0.05	16	0.04
(5) 誤答・誤答	65	0.18	47	0.13	31	0.09	9	0.03
(6) 誤答・未解答	12	0.03	13	0.04	8	0.02	4	0.01
(7) 未解答・正答	17	0.05	13	0.04	7	0.02	4	0.01
(8) 未解答・誤答	19	0.05	18	0.05	9	0.03	5	0.01
(9) 未解答・未解答	10	0.03	7	0.02	3	0.01	3	0.01
合計	360		360		360		360	
(1)+(5)+(6)+(8)+(9)	272	0.76	267	0.74	300	0.83	301	0.84
(2) + (3)	40	0.11	44	0.12	36	0.1	39	0.11
(4) + (7)	48	0.13	49	0.14	24	0.07	20	0.06

表9 用紙版・WEB版における解答パターン（WEB版→用紙版）

用紙版・WEB版	D	%	E	%	F	%	G	%
(1) 正答・正答	179	0.50	200	0.56	241	0.67	275	0.76
(2) 正答・誤答	30	0.08	30	0.08	24	0.07	29	0.08
(3) 正答・未解答	14	0.04	14	0.04	28	0.08	23	0.06
(4) 誤答・正答	31	0.09	25	0.07	16	0.04	6	0.02
(5) 誤答・誤答	56	0.16	37	0.10	23	0.06	13	0.04
(6) 誤答・未解答	15	0.04	10	0.03	11	0.03	5	0.01
(7) 未解答・正答	9	0.03	16	0.04	5	0.01	3	0.01
(8) 未解答・誤答	20	0.06	20	0.06	4	0.01	2	0.01
(9) 未解答・未解答	6	0.02	8	0.02	8	0.02	4	0.01
合計	360		360		360		360	
(1)+(5)+(6)+(8)+(9)	276	0.77	275	0.76	287	0.80	299	0.83
(2) + (3)	44	0.12	44	0.12	52	0.14	52	0.14
(4) + (7)	40	0.11	41	0.11	21	0.06	9	0.03

表 10 用紙版・WEB 版における解答パターン（全体）

用紙版・WEB 版	D	%	E	%	F	%	G	%
(1) 正答・正答	345	0.48	382	0.53	490	0.68	555	0.77
(2) 正答・誤答	57	0.08	61	0.08	45	0.06	52	0.07
(3) 正答・未解答	27	0.04	27	0.04	43	0.06	39	0.05
(4) 誤答・正答	62	0.09	61	0.08	33	0.05	22	0.03
(5) 誤答・誤答	121	0.17	84	0.12	54	0.08	22	0.03
(6) 誤答・未解答	27	0.04	23	0.03	19	0.03	9	0.01
(7) 未解答・正答	26	0.04	29	0.04	12	0.02	7	0.01
(8) 未解答・誤答	39	0.05	38	0.05	13	0.02	7	0.01
(9) 未解答・未解答	16	0.02	15	0.02	11	0.02	7	0.01
合計	720		720		720		720	
(1)+(5)+(6)+(8)+(9)	548	0.76	542	0.75	587	0.82	600	0.83
(2) + (3)	84	0.12	88	0.12	88	0.12	91	0.13
(4) + (7)	88	0.12	90	0.13	45	0.06	29	0.04

この中で得点に影響を与えないパターンを合計したものが、表の(1)+(5)+(6)+(8)+(9)である。両テストにおいて正答している場合と、誤答・未解答の組み合わせの場合である。(5)「誤答・誤答」でも同じ解答をしている場合ばかりではなく、また、誤答と未解答は異質ではあるが、正解・不正解という意味では「一致」していると見ることができるものである。表 8～表 10 を見ると、D が 76%あるいは 77%, E が 74%～76%, F が 80%～83%, G が 83%あるいは 84%となっている。

一方、得点に影響を与えるパターンは次の 2 つの場合である。用紙版では正答だが WEB 版では誤答あるいは未解答になっている(2)+(3)と、逆に、用紙版では誤答あるいは未解答だが WEB 版では正答になっている(4)+(7)である。(2)+(3)は D E F G 間で違いは見られない。ところが、(4)+(7)は、D E では F G の 2～4 倍になっており、D E と F G の間で大きな差が見られる。また、D E では(2)+(3)の数と(5)+(7)の数がほぼ同じであることも、注目すべき点である。

前節の表 4～表 7 を再度みると、D E の場合、用紙版・WEB 版の平均点に差が見られなかったのであるが(Dの「全体」で言うと用紙版・WEB 版の正答率は同じく 0.60,

Eの「全体」で0.65, 0.66), 1つ1つの解答を分析すると, 75%程度しか「一致」していないことがわかる。残りの25%について, 用紙版・WEB版で異なる解答をしているにもかかわらず, 得点差が生じていないのは, 先に述べたように, 「用紙版では正答だがWEB版では誤答あるいは未解答」というパターンと, 「用紙版では誤答あるいは未解答だがWEB版では正答」というパターンが同数になっているためである。いわば, 得失点が相殺されてしまった, と言うことができる。そして, FGにおいて用紙版・WEB版の平均点に差が生じたのは, 「用紙版の正答, WEB版の誤答・未解答」というパターンに比べて, 「用紙版の誤答・未解答, WEB版の正答」というパターンが少ないためであるとわかる。

次節では, SPOTの用紙版・WEB版が要求する言語行動モデルを考えることによって, この点について考察することにする。

5.3 SPOTの解答行動モデル

図1, 図2は, SPOT-用紙版, SPOT-WEB版が要求する言語行動モデルである。

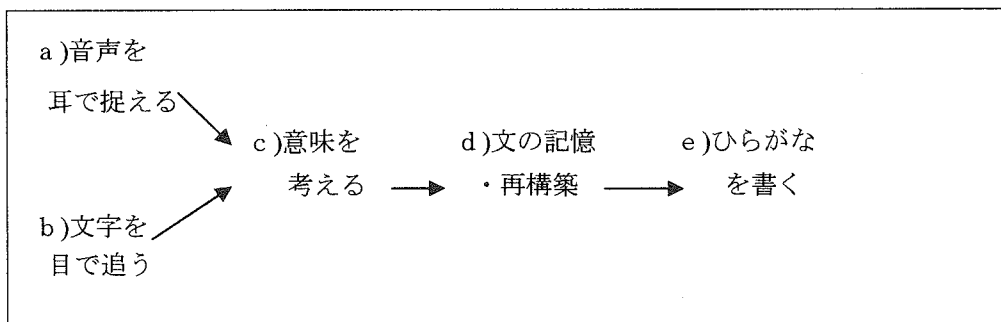


図1 SPOT -用紙版の解答行動モデル

(Ford-Niwa Junko 他 1999 を改変)

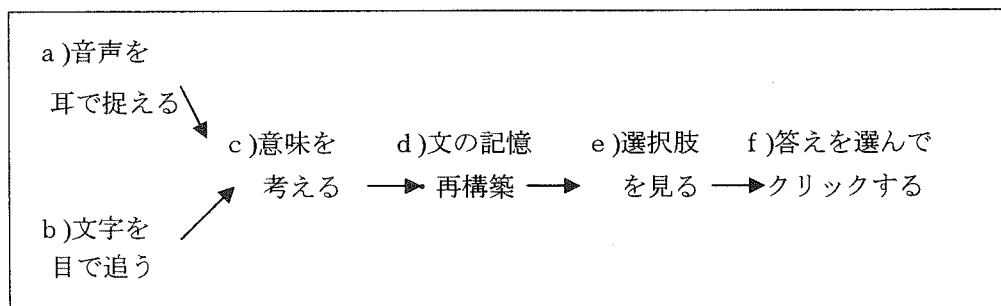


図2 SPOT -WEB版の解答行動モデル

SPOT は図 1、図 2 に示すような言語行動を要求すると考えられる。受験者は自然な発話速度で a) ～ e) / f) までの言語処理を行わなければならない。解答に際して要求される言語行動は、用紙版では「ひらがなを書く」だけなのに対し、WEB 版では「選択肢を見る」「答えを選んでクリックする」である。この解答形式の違いがテスト結果に与える影響について、前節のテスト結果から次のことが言えそうである。

WEB 版で選択肢が与えられていることは、正答がわからない場合には解答をやさしくするが、わかっている場合には、4つの選択肢を見て正答を選ぶという作業が負の効果として働く。この負の効果はDEFGのいずれの問題においても同様に作用するが、選択肢が正答を助けるのは、受験者にとって難しい問題の場合と言える。なお、次節で見るアンケート結果にはこれを支持するコメントがある。

5.4 アンケート結果

表 11 は、用紙版・WEB 版に対する感想をアンケート調査（資料 2）した結果の一部である。DE と FG で異なる解答があるため、合計は 24 を超えている。

表 11 用紙版・WEB 版に対する感想

	用紙版	WEB 版
どちらがやりやすかったか	20 人 (FG 2 人)	6 人 (DE 2 人)
どちらが得点がいいと思うか	16 人 (FG 1 人)	9 人 (DE 1 人)

用紙版がやりやすかったと答えている人が多いことがわかる。その理由として、次のようなことを挙げている。

- ・用紙版では単純に答えを書けばいいのに比べ、WEB 版では選択肢に目を通して答えを選ばなければならないため、より困難である：4 人
- ・WEB 版では選択肢を見なければならないため、より時間がかかる：9 人
- ・WEB 版は時間が短い：10 人
- ・用紙版のほうが、文全体の意味を考える時間がある：3 人
- ・用紙版では、前後の問題を見ることができる：1 人
- ・WEB 版では、うっかりクリックして、意図した答えとは異なる答えを選ぶことに

なってしまった・用紙版では間違って書いた答えを訂正できる：4人

- ・クリックしたのと同時に画面が切り替わり，その問題と次の問題の両方に失敗した：1人

このように，多くの人が，WEB版で選択肢を見なければならないことをより困難であると感じたり時間をとられるという理由から用紙版のほうがやりやすいとしながらも，一方で，解答の助けになると答えている。

- ・WEB版は答えが選択肢の形で与えられているためより簡単（用紙版ではわからなければ答えを書けないが，WEB版では選べばいいので解答できる）：9人

これらのコメントは，解答行動について考察したことを支持するものと言えよう。

6. おわりに

SPOT-WEB版が用紙版と同様に妥当性をもったテストでありうるかを検討するために，同じ受験者に対し用紙版とWEB版を実施した。その結果をまとめると，(10)～(13)のようになる。

- (10) 易しいバージョンの SPOT-F Gでは用紙版の平均点が有意に高く，難しいバージョンの SPOT-D Eでは WEB版の平均点がわずかだが高かった。
- (11) 解答パターンを分析した結果，両テストにおける解答は74%～84%の「一致」だとわかった。用紙版の正解がWEB版では不正解というのはSPOTの難易にかかわらず同様に見られたが，用紙版の不正解がWEB版では正解というのは，SPOT-D Eでは SPOT-F Gの2～4倍あった。
- (12) SPOT-D Eでは，用紙版で正解・WEB版で不正解という解答パターンと，用紙版で不正解・WEB版で正解というパターンとが同数であったため，両テストの平均点に差が生じなかったが，SPOT-F Gでは後者のパターンが少なく，差が生じた。
- (13) テスト媒体の違いは解答形式の違いをもたらし，そのことが解答行動を変えた。四肢選択式というWEB版の解答形式は，用紙版に比べより多く複雑な作業を要求する。そのことがWEB版の得点を低くする一方で，問題が難しい場合には選択肢の存在が正答を助けることがわかった。

今回のテストの実施では、SPOT-WEB 版は用紙版と多少異なる結果を生んだと言ってよいだろう。WEB 版では問題間の間隔がより長いにもかかわらず、多くの受験者が短いと感じている。間隔をもう少し長くし選択肢の検討にかかる時間的負担を減らすことで、解答形式の違いがもたらす負の作用を改善できる可能性がある。

今後はさらに、他の外在基準を用いることにより SPOT-WEB 版の妥当性を検討する必要がある。

注

- (1) SPOT には A～F のバージョンがあり問題数が異なる。A は 65 問、B は 60 問、他は 30 問である。30 問の SPOT を使用する場合、通常は 2 つを組み合わせる(例: D + E) 60 問で実施する。
- (2) 村上京子 (1998) は、同じバージョンの SPOT を、明瞭さが異なる音声テープを使用して実施した。その結果、明瞭さが上がると正答率も上がったことを報告している。

引用文献

- (1) 小林典子・フォード丹羽順子・山元啓史 (1994) 「日本語能力簡易試験としての「聞きテスト」—解答形式の漢字要因に関する分析—」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』第 9 号 149-158
- (2) 小林典子・フォード丹羽順子・山元啓史 (1996) 「日本語能力の新しい測定法「SPOT」」『世界の日本語教育』第 6 号 国際交流基金日本語国際センター 201-218
- (3) 小林典子 (2005) 「言語テスト SPOT について—用紙形式から WEB 形式へ—」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』第 20 号 67-82
- (4) 當作靖彦 (2005) 「SPOT とコンピュータ・テストについて」日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (B) (2) 研究成果報告書 (1) 「言語テスト SPOT—WEB 版開発と解答行動の研究」筑波大学 41-55
- (5) フォード丹羽順子・小林典子・山元啓史 (1995) 「「日本語能力簡易試験 (SPOT)」は何を測定しているか—音声テープ要因の解析—」『日本語教育』86 号 日本語教育学会 93-102

- (6) 村上京子 (1998) 「名古屋大学におけるSPOTの実施」文部省科学研究費補助金国際学術研究 研究成果報告書(3) 「日本語学習者に対するプレースメントテストとしてのSPOT (Simple Performance- Oriented Test) 」筑波大学 94-99
- (7) Ford-Niwa Junko & Kobayashi Noriko (1999) SPOT: A Test Measuring 'Control' Exercised by Learners of Japanese, (ed.) Kazue Kanno, *The Acquisition of Japanese as a Second Language*, John Benjamins Publishing Company 53-69

付記

本研究は, 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(B)(2) 課題番号 16320064 の助成を受けている。

筑波日本語テスト集 Tsukuba Test Battery of Japanese		試験情報 試験名称: Practice スタイル: SPOT	受験者情報 受験者氏名 受験番号
テープを聴いて()にひらがなを一字入れなさい。			
ここは静 () ですね。			
①	か		
②	く		
③	が		
④	け		
5 問目 / 10 問中			
筑波大学留学生センター			

資料 2

名前

国

WEB ID

1. WEB テストと紙のテストでは、どちらがやりやすかったですか。

Which was easier to do, the Web test or the paper test?

WEB・紙

2. あなたの得点はどちらが良いだろうと思いますか。

On which do you think you scored higher, the Web test or the paper test?

WEB・紙

3. 2つのテストは同じ能力を測定していると思いますか。異なる能力が影響すると思いますか。自由に書いてください。

Do you think the two tests measure the same ability? Or does a different ability influence the result? The aim of this question is to help us improve the efficacy of the test. Please feel free to write frankly and openly.

(佐賀大学留学生センター助教授)